

# ひかり

令和7年10月30日(木)  
静岡大学教育学部  
附属静岡小学校  
6年 学年便り 11月号

## 「 A(新たな知見を得る) T(楽しむ) M(みんなで) 」

待ちに待った修学旅行がいよいよ来週にせまってきました。ここまで、実行委員を中心に学年目標が設定され、それをもとに各学級でも目標を設定し、活動してきました。どの学級の目標も、言葉は違えど「『楽しむこと』と『学ぶこと』のどちらも大切にしたい」という思いがこめられたものとなっています。

そして、目標を踏まえて行われたグループづくり。「学年目標にある『新たな知見を得る』や『みんなで』には、これまでの学校生活ではあまり関わらなかった人との関わりも必要だと思う」「1日目のグループは『学ぶ』という目的のために組んで、2日目はできるだけ『思い出作り』のためのグループにしたい」と、実行委員が学級の仲間に考えを伝えて話し合いは始まりますが、学級の一人ひとりに思いがあり、理想の形があるからこそ、全員が同意してすんなりと決まることはほとんどありません。話し合いの中で、悔しさややるせなさを感じた人もいたのではないのでしょうか。

そんな中で、自分自身は満足のいくグループ編成になったとしても、誰かが向かう方向を変えてくれたことでなんとか決まったという形になった時には「クラスとして本当にこれでいいのか」と立ち止まり「もう少し平等な方法で決められないだろうか」と考えて声を上げてくれる人がいました。「何かを決める時、全員が100%満足することは難しいけれど、いくつかあるグループづくりで少しずつみんなが譲り合うことで平等にできるといい」と考え、行動に移してくれた人もいました。きっとその人にも自分が100%満足する形があったと思います。しかし、その理想は一度捨て、仲間のことを考えて自分の修学旅行での学びを達成するための方法を変容させた・させようとした姿。まさに「自らをきりひらく」姿の一つだと感じました。

夏休み前。6年生としての大きな行事を前に学年集会で改めて修学旅行の目的を確認した際「修学旅行ってただの楽しい旅行だと思ってた」という言葉を呟いた人がいました。マイナスにも聞こえるこの言葉。しかし、その日の日記には「せっかくの修学旅行だからこそ、たくさん学んでいいものにして、楽しみたい」と書かれていました。そんな風に、それぞれが修学旅行に対して大きな期待を抱いていると思います。すでに修学旅行に向けて色々なことを経験し、学んでいることも多いのではないのでしょうか。あなたも含めた「ひかり」の仲間全員で充実した修学旅行をつくることができるよう、残りの期間も体調管理や準備を万全にして臨めるといいですね。

思い通りにいくことばかりではない修学旅行に向けての話し合い。保護者の皆様におかれましても、ここまでのご家庭での温かい励ましやご支援、本当にありがとうございました。子どもにとって、仲間と力を合わせる中で感じる喜びや自分の思うようにいかないことの中で学ぶこと、その全てがこれから生きる財産になるものです。この修学旅行を通して、一回り成長した姿で卒業へ向けて力強く歩む姿を私たちも願い、支えていきたいと思っております。どうぞ今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。